

[認知症対応型共同生活介護用]

## 調査報告概要表

作成日 平成20年 10月 05日

### 【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4670102823
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部鹿児島県済生会
事業所名	グループホーム 武岡5丁目
所在地	鹿児島市武岡5丁目16-23 (電話) 099-282-6081
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5 前田ビル1F
訪問調査日	平成20年10月5日

### 【情報提供票より】(20年 9月 1日事業所記入)

#### (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 8 月 5 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 3 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	8 人

#### (2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

#### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 30,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

#### (4)利用者の概要( 9月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	0 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	85.5 歳	最低 82 歳	最高 90 歳

#### (5)協力医療機関

協力医療機関名	済生会鹿児島病院、島田内科、パールランド病院、横山記念病院、横峰病院、下田平歯科医院
---------	--

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

団地のほぼ中央に位置する平成14年開設のグループホームである。周囲には公園や商店が多く、車いす利用の方を含め利用者のほとんどが日常的に外出を楽しんでいる。また、法人は医療施設、福祉施設、ケアハウス等を有し、利用者のさまざまな状況に対応できるため、利用者のもとより、家族、職員に安心感がある。ホーム内は1ユニットで家庭的な雰囲気が感じられ、職員は利用者一人ひとりの性格や状況を考え、利用者が自分のために、また、みんなのためにどう暮らしていくのか、希望を聞いたり、くみ取ったりしながら個々に応じた支援や利用者同士の関係のあり方を模索し寄り添い暮らしている。隔月に開かれる運営推進会議に福祉関係の有識者や訪問看護師を加えたり、毎年介護相談員を受け入れたりしている開かれたホームである。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年の外部評価結果を全家族に配布し、運営推進会議でも参加者に報告している。昨年の外部評価で取り組みを期待したい事項となった「同業者との交流」「災害対策」については法人幹部とも話し合い、来年度計画に実施月が組み込まれるなど具体的な取り組みが進んでいる。</p>
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	<p>職員は外部評価を受けることによってサービスの質を向上させたいと考え、自己評価も全員で取り組んでいる。</p>
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>2か月に1回、利用者代表、家族代表、民生委員などを招いて開催されている。NPO法人代表や訪問看護ステーション管理者の参加はホームの特徴であり、専門的助言、提案や意見交換が行われサービスの質の向上につながる有意義な会になっている。</p>
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	<p>家族に利用者の「暮らし」を伝えるために毎月の便りに写真を添えて、また、面会や電話など機会をとらえて連絡している。さらに、玄関や入居時の説明書類に苦情相談窓口を明記するとともに、家族の訪問時にも声をかけて気がついたことを伝えていただけるように心掛けている。家族の依頼については申し送りノートに記載しすべての職員が共有するようにしている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>市街地に建てられ周囲に商店や公園、学校などが多く外出の機会も多い。散歩や外出の際にあいさつを交わしたり、花の苗や日用品の差し入れをいただくなど日ごろのお付き合いができています。また、自治会に加入し回覧板のやり取りをしたり、運動会などの地域の行事へも見学のみでなく何らかの形で参加するように工夫し努力している。さらに、グループホーム内の行事を回覧版で紹介し、地域の方においていただくように案内し交流に努めている。</p>

# 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との交流を大切にしながら「あなたのしたいことできることを尊重したケアをめざす」ことをうたったグループホーム独自の理念がある。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの玄関、ホール、台所にホームの理念を掲示するとともに、日々の朝礼や毎月行われる定例会で理念の確認を行い、職員全員が共有できるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは市街地に建てられ周囲に商店や公園、学校などが多く外出の機会も多い。散歩や外出の際にあいさつを交わしたり、花の苗や日用品の差し入れをいただくなど日ごろのお付き合いができています。また、自治会に加入し回覧板のやり取りをしたり、運動会などの地域の行事へも見学のみでなく何らかの形で参加するように工夫し努力している。さらに、グループホーム内の行事を回覧版で紹介し、地域の方においていただくように案内し交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価を受けることによってサービスの質の向上に役立つと考え、自己評価も全員で取り組んでいる。前回の外部評価の結果を全家族に配布し、運営推進会議でも報告を行った。前回の外部評価で話し合われた「同業者との交流」「災害対策」については取り組みが始まり、来年度の計画に組み込まれている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、利用者代表、家族代表、民生委員などを招いて開催されている。NPO法人代表や訪問看護師ステーション管理者の参加もあり、専門的助言や意見交換や提案が行われ有意義な会になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諸手続きを行うときに関係部署に立ち寄り、情報交換を行っている。毎年介護相談員の訪問を依頼し、利用者が自由に会話したり相談ができるような機会を提供している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	一人ひとりの生活の様子を載せた便りに写真を添えて毎月家族に報告を行うとともに、面会や電話などでも機会をとらえて、生活状況や健康状態、金銭管理、職員の異動について報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関や入居時の説明書類などに苦情相談窓口を明記するとともに、面会の時に意見などを遠慮なく表出してもらえるように声をかけている。また、玄関には意見箱も設置しているが苦情が出されたことはない。その時々依頼については申し送りノートに記載し全職員が共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年は異動が多かったが、やむを得ず異動になるときには新しい職員は自己紹介や挨拶に気をつけ、利用者にはダメージが少なくなるように配慮している。また、家族にも便りや訪問された時に説明し混乱が起きないように努力している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフミーティングの時間の中で不定期だが勉強会を開いている。法人内の研修などにも参加し、ホーム内で伝達を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年の外部評価の取り組みを要望された事項でもあり、法人との調整を進めてきた。来年4月よりグループホーム連絡会に加入する予定である。現在法人内のグループホームとの交流があるが、他施設の管理者や職員との交流は機会が少ない。	○	法人外のグループホームなどとの交流により、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携を図ることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用前から家族などにホームを見学していただき、安心して生活を始められるように配慮している。また、入居当初はできるだけ家族に面会に来ていただくなどの工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が玄関先の草を取りながら、「この鏡だから(きれいにしないと)」とつぶやいた時、スタッフの健康や心配ごとの心配をしてもらい慰められた時、食事の支度などをともにしながら昔のことを教えられた時など利用者から学ぶことが多い。また、得意な趣味などを利用者から教えていただくなど、一方的な関係ではなく支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に担当していたケアマネジャーと連絡を取り合い、入居時には本人や家族の意向の把握を含めてアセスメントを行っている。お茶などを飲みながらゆっくりと話す中で、本人の意向もなるべく引き出すよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族の意向をもとに介護職員の話し合いで作成されている。本人の言動を丁寧に記録し、個々にあった目標が具体的に立てられ、利用者本位の計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月モニタリングを行い計画に対する支援の様子や修正の必要性を確認している。また、6か月ごとに評価を行い達成状況を確認し、1年ごとには見直しを行っている。目標の設定期間終了前でも必要がある時には関係者がチームで話し合い計画の見直しを行い、新たに計画を作成することとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内のデイサービスを利用した温泉での入浴、以前通っていたデイサービスの仲間との交流の支援など利用者が安心して自分らしく暮らせるように事業所として柔軟な支援をしている。また、医療との連携により利用者がホーム内で医療を受け、入院の機会が減るように利用者や家族の要望にも柔軟な対応を試みている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医を継続して受診してもらうなど利用者の希望に沿った受診の支援を行い、特に認定更新時には計画作成担当者とかかりつけ医が介護計画についても情報交換を行いながら家族や職員と情報の共有を図っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合はその時点で家族、かかりつけ医、職員等で話し合い方針を共有している。しかし、グループホームとして重度化や終末期の方針を明文化したものはなく、職員間で対応が共有されているとは言いがたい。	○	利用者の健康状態が重度化した場合や終末期のあり方、事業所の対応について事業所の運営方針を決め、日常の健康管理や急変時に対応できるように、話し合いや研修、方針の統一を行うことが望まれる。
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護については秘密の保持、個人情報の提供などについて方針を定め、利用開始時に利用者や家族に説明し、職員も記録物の保管等に気を配っている。また、利用者の尊厳を守るためにケアの中でお互いに気づいたことを話し合い、質の向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を聞きながら、職員の業務を優先させることがないように日々気をつけて支援を行っている。訪問時も職員と利用者との静かな対話と利用者それぞれのペースでの生活の様子がうかがえた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを聞きながら、下ごしらえなどできるところは一緒に行い、感謝の言葉かけが見られる。また、利用者の咀嚼や嚥下の状態に応じて食事の形態に工夫を行っているが、目立たないように配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴を行う曜日は決まっているが希望に応じて自由に入浴できる。入浴時間は余裕を持ち、ゆったりと楽しめるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味を活かし生き生きとした生活の支援を行っている。また、利用者同士の助け合いが行われたり、支払いを自分で行うなど力を活かした支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは市街地にあり、商店や公園も多く、利用者は車いすの方も含め、毎日のように外出をしている。また、希望に応じてドライブも楽しんでいる。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけることの弊害を理解し、夜間を除いて鍵をかけていない。訪問時も利用者は自由に玄関から外出し、職員はそれとなく見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年の外部評価の取り組みを要望された事項でもあり、運営推進会議で協議し今年11月に地域の住民を含めた避難訓練を計画している。緊急時の連絡網が作成され、年2回、夜間想定を含めて火災訓練が行われている。	○	地域の方の参加した避難訓練を実行し、さらに意見を出し合いながら、より安全で安心して暮らせるような支援体制の整備を図ることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事摂取量や飲水量を把握し、利用者の健康状態に気を配っている。特に栄養バランスは毎月法人内の栄養士にアドバイスをもらい、利用者のより良い健康づくりに役立っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、季節感も取り入れられている。思い思いの居場所を確保できるスペースも備わっており、台所の匂いや音など生活感も感じられる。また、浴室は利用者の状態が変化してきたことを考慮して危険防止の視点から新たに手すりを増やした。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は希望に応じて畳の部屋が用意され、使い慣れたものが持ち込まれている。また、本人の趣味にあわせた家具や小物、家族の写真など居心地良く過ごせるように工夫をしている。		